

自己評価報告書

平成23年 5月11日現在

機関番号：13901

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2008～2011

課題番号：20730332

研究課題名(和文)

「学生運動世代」のライフコースに関する日独比較研究

研究課題名(英文)

Comparative Research on Life Courses of Japanese and German '68 Generations

研究代表者

青木 聡子 (AOKI SOKO)

名古屋大学・環境学研究科・講師

研究者番号：80431485

研究分野：社会学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：社会学

1. 研究計画の概要

本研究は、日独の「学生運動世代」を対象としたライフコース分析を通じて彼らの政治的・社会化過程を導出し、1970年代以降に日独でみられた政治や社会運動をめぐる環境の変化との関係を明らかにすることである。そのためにまず、①学生運動とのかかわり方、ライフコース、政治意識の変化、社会運動へのコミットに関する質問紙調査を日独でおこない、日独の「学生運動世代」の政治観や政治へのかかわり方に関する構造的な特徴を導出し、日独間の相違を検証する。次に、②日独の「学生運動世代」を対象にライフコースの聞き取りをおこない、学生運動の経験が個人の人々の社会観や価値観の形成に与えた影響や、「学生運動世代」としての集合的アイデンティティの形成過程、それらに基づく社会運動参加への動機付けの有無などに関して、より深層からの把握をおこない、①の相違点の源泉を導出する。

2. 研究の進捗状況

平成22年4月から9月にかけて調査対象のサンプリングや調査票の作成などの事前準備をおこない10月から11月にかけてハンブルク(ドイツ)において質問紙調査を実施する予定であったが、サンプリングのために使用を予定していた名簿が公開不可とされたため質問紙調査の実施を見直し、名簿を使用しない聞き取り調査をおこなうよう計画を変更した。

3. 現在までの達成度

③やや遅れている

当初予定し準備を進めていたアンケート調査が実行不可能となったため、調査計画を

再検討し、聞き取り調査と文献へとデータ収集の方法を変更した。そのため、得られるデータは当初予定していたものと比べると限定的にならざるを得ないが、分析に耐えうる質的データの収集を進めている。昨年度までで15件程度のライフヒストリーを収集している。

4. 今後の研究の推進方策

最終年度である本年度は、まず、ドイツにおける聞き取り調査、なかでもライフヒストリー調査を重点的におこなう。具体的には、ニーダーザクセン州内およびノルトライン・ヴェストファーレン州の環境運動従事者に対するライフヒストリーの聞き取り調査をおこなう。フライブルク(バーデン・ヴュルテンベルク州)で実施済みの質問紙調査の結果および追加の聞き取り調査の結果とあわせて検討をおこない、メンバーが有する a) 環境運動への参加動機、b) 社会運動観、c) 政治的志向性、d) 社会運動経験などに関するドイツ国内での地域間比較をおこなう。加えて、a)～d)の項目に関して、学生運動世代とそれ以外の人々との比較をおこなう。これらの調査から得られた結果と文献調査から得られたあわせて分析をおこない、ドイツにおける社会運動観の全体像、地域間の差異、世代間の差異とりわけ「学生運動世代」の特徴を導出していく。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計0件)

〔学会発表〕(計1件)

青木聡子, 「問題は解決したのか——環境紛争経験地域の再生を考える」東海社会学会大会(2010年7月3日, 於: 金城学院大学).

〔図書〕(計2件)

青木聡子, 2010, 「環境社会学——自然環境と人間社会との相互作用を考える」竹内恒夫ほか編『社会環境学の世界』日本評論社: 163-181.

青木聡子, 2010, 「ドイツ」環境総合年表編集委員会編『環境総合年表——日本と世界』すいれん舎: 526-530.

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

○取得状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕